

1. 略歴

2000年4月	東京大学教養学部文科Ⅲ類 入学
2002年4月	東京大学文学部思想文化学科宗教学宗教史学専修課程 進学
2004年3月	東京大学文学部思想文化学科宗教学宗教史学専修課程 卒業
2004年4月	東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専門分野修士課程 入学
2007年3月	東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専門分野修士課程 修了
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専門分野博士課程 進学
2009年4月	日本学術振興会特別研究員 (DC2) (東京大学、～2011年3月)
2010年6月	サントル・セーヴルーパリ・イエズス会神学部 (日本学術振興会優秀若手研究者海外派遣事業 (第二回) による海外派遣、～2011年3月)
2011年9月	フランス国立社会科学高等研究院 (EHESS) 博士課程 入学
2011年9月	フランス政府給費留学生 (フランス国立社会科学高等研究院、～2013年7月)
2012年7月	東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専門分野博士課程 単位取得退学
2012年8月	東京大学大学院次世代人文学開発センター研究員 (～2013年3月)
2014年4月	天理大学人間学部宗教学科 専任講師
2014年11月	博士 (文学)、東京大学
2015年4月	フランス国立社会科学高等研究院 (EHESS) 博士課程 退学
2019年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

西洋近世神秘主義、神秘主義概念の系譜学的研究、現代宗教思想・宗教哲学

17世紀フランスを中心に、近世西欧カトリック圏に興隆した「神秘主義 (la mystique)」と呼ばれる思想潮流を研究している。近世神秘主義文献に沈潜するとともに、「神秘主義」概念を思想史上に再定位し、さらには神秘主義と現代「宗教」思想とを関連させつつ新しく捉えなおす可能性を探索している。

b 研究課題

(1) 近世西欧神秘主義思想史に関わる研究

博士論文以来の研究課題である17世紀フランス神秘主義、ジャン＝ジョゼフ・スユラン研究を軸としながら、中世後期の北方 (ライン、フランドル) 神秘思想、また16世紀スペイン神秘主義との接続を図り、連続性と断絶性を明らかにすること、それによって西洋近代という時代の特徴を宗教史の観点から問うこと。また、16世紀スペインの神秘家十字架のヨハネをはじめとする神秘主義の信仰論を焦点に、近世近代における解釈の諸相を追うことによって、近代以降の西洋における神秘主義のゆくえを見通すこと。

(2) 「神秘主義」概念の再定位

19世紀以降宗教学の重要概念となった「神秘主義 (mysticism)」の歴史性を、近現代の宗教をめぐる学知の全体的構造のなかに位置づけるとともに、とくに近世神秘主義との連続と断絶という視角から明確化すること。また、広く「神秘」をめぐる思想や実践の変遷を西洋古代から辿り、重要な局面を検討することで、神秘をめぐる知のありかたを系譜学的に理解すること。

(3) 現代宗教思想と神秘主義、現代世界における信仰の条件の再検討

現代に宗教や信仰の条件をラディカルに問いなおす思想や哲学がしばしば神秘主義と接点をもつことを論点化し、(2)とも関連させて神秘主義を「他なるもの」を語ろうとするラディカルな知として捉えなおすこと。また、脱宗教化する西洋世界で信仰の条件がいかなる変化を遂げているかを明らかにすること。より具体的には、現代的神秘主義研究に新境地を拓いたミシェル・ド・セルトーの神学を、ポスト世俗主義の宗教論として解釈すること。さらには、近代日本に発生した民衆宗教思想 (天理教) の再検討を通じて、近現代社会の宗教や信仰への眼差しを反省的に吟味すること。

c 概要と自己評価

(1)については、4つの研究発表を行い、論文1本にまとめた。科学研究費若手研究B「近世西欧神秘主義の信仰論をめぐる系譜学的・宗教哲学的研究」で焦点化した信仰論を起点に、近世から近現代へと研究の領域を連続的に広げる

見通しをつけることができた。(2)については、まだ着手したばかりの段階で、具体的な成果を出していくのはこれからだが、思想史や哲学研究との交錯も視野に入れた神秘主義研究の基盤整備のためにも今後注力すべき課題と考えている。神秘主義の系譜を概観する単著(入門書)を1、2年中にまとめる予定である。(3)については、3つの研究発表を行い、論文3本を刊行した。長年取り組んでいるセルトーの翻訳書の完成を急ぎたい。(1)~(3)のいずれにも言えるが、外国語による研究成果の発表にも力を入れたいと考えている。

d 主要業績

(1) 論文

Yu WATANABE, 「The Joy of the Beginning: A Study on the 'Eight Verses of the Yorozuyo」, 『Tenri Journal of Religion』, 46, 1-24 頁, 2018.3

渡辺優, 「「パロール」とそのゆくえ—ミシェル・ド・セルトーにおける宗教言語論の輪郭」, 『天理大学学報』, 249, 1-28 頁, 2018.10

渡辺優, 「魂の根底の溶解?—中世北方神秘思想と近世フランス神秘主義のあいだ(1)」, 『東京大学宗教学年報』, 36, 17-32 頁, 2019.3

渡辺優, 「教学と宗教学の幸福な結婚?—天理教二代真柱・中山正善における教祖論をめぐる」, 『天理大学学報』, 71, 1-23 頁, 2019.10

(2) 学会発表

国内、渡辺優, 「来るべき天理教学のために—現代教学・神学の条件」, 天理大学附属おやさと研究所第308回研究報告会, 2018.1.31

国内、渡辺優, 「「暗夜の信仰」の知の系譜学」, 平成30年度土井道子記念京都哲学基金シンポジウム「信と知—今日における」, 2018.9.3

国内、渡辺優, 「17世紀フランス神秘主義における十字架のヨハネ」, 日本宗教学会第77回学術大会, 2018.9.8

国内、渡辺優, 「神秘主義の知のありか」, 第54回文化交流茶話会, 2019.7.4

国内、渡辺優, 「17世紀フランスにおける神秘主義的信仰論の諸相—十字架のヨハネの「暗夜」の教説をめぐる」, フランス近世の〈知脈〉第4回研究会, 2019.8.1

国内、渡辺優, 「ギュイヨン夫人と信仰の闇」, 日本宗教学会第78回学術大会, 2019.9.15

国際、渡辺優, 「キリスト教の破碎/燦めき—現代カトリックの危機とミシェル・ド・セルトー」, 危機の時代のスピリチュアリティ(日仏文化講座), 2019.10.19

(3) 受賞

国内、渡辺優, 2018年度天理大学学長褒賞、天理大学, 2018.4.23

(4) 翻訳

共訳、Régine Azria, Danièle Hervieu-Léger eds., "Dictionnaire des faits religieux", 増田一夫・伊達聖伸・鶴岡賀雄・杉村靖彦・長井伸二(編訳), 『宗教事象事典』(渡辺担当箇所: 「回心・改宗」「伝統、伝統主義、新・伝統主義」), 2019.5

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、天理日仏文化協会, 「信仰の闇の彼方—17世紀フランスのイエズス会士ジャン=ジョゼフ・スュランの神秘主義」, 2018.3

特別講演、大阪市阿倍野市民センター, 「暗夜の信仰—キリスト教神秘主義の隠れた主題とその現代的可能性」, 2018.5

特別講演、宇都宮美術館, 「Rouault mystique? —世俗化と神秘主義の時代のキリスト教画家」, 2018.8

特別講演、東京天理文化会議, 「教祖論の可能性」, 2019.6

天理大学大学院宗教文化研究科非常勤講師, 2019.4~2020.3

(2) 学会

国内、日本宗教学会、評議員, 2019.9~